



令和8年9月
第260号

かけはし

ケアハウスあじさい園

URL: <http://www.ajisaien.or.jp/>



京都女子大学 小原嘉記教授の中世東大寺の災害について、学ぶ機会をいただきました。

火災には自然災害（雷火）人災（失火・放火・兵火）の2種類あり、今回のおはなしは雷火についてです。

949年「大安寺西塔焼亡す、仏舍利を取らんが為、雷公の所為と云々」つまり、大安寺西塔が焼けたのは仏舍利を取ろうと降り立った雷さまの仕業である。と、民経記に記されています。

1057年「雷、東塔に落ち心柱の翼角を裂く、連子を壊ち出で去り了」つまり、東大寺東塔に落ちた雷が心柱の翼角を裂き、その雷が戻る時に連子の窓を壊して出て行った。と、東大寺別当次第に記されています。

1106年「食堂、落雷の事、西戸の扉も同じく蹴り破る所也、是還り出づるの跡」つまり、興福寺食堂に雷が落ちた後、戻っていく時、西の扉も蹴りとばして雷は帰って行った、と朝廷に報告したという事実が中右記に記されています。

1239年「七重御塔内に四天王像を安置せられんと欲する」雷による火災を防ぐため東大寺七重塔に四天王像を安置してくださ

い、と願いでた事実があったと残っています。
1451年「東大寺南大門、雷落ち懸け焼き上げんと欲するの処、二天、彼の雷光を降伏せしめ給う、前代末聞の奇特也」雷が南大門に落ち焼けそうになったが、南大門の仁王様がやつつけ、雷公は降伏して出て行った、お見事であった。との事実が康富記に記されています。

要するに、雷火は自然現象ではなく、雷公（雷神）の降臨による災厄と考えられていました。そして神仏による守護が雷火に対する効果的対策として認識されていました。

また、日常的な災いとしておこる火災への対応は人々の参集で、火事が起こると叫んだり太鼓や鐘をならして寺だけではなく地域中の人が集められました。消火方法は「打ち消す」「撲滅せしむ」と言われるように棒のようなもので打ち消したり、近隣の建物を壊して延焼を防ぐ方法です。水で火を消すこともされましたが人力のため限定的でした。1106年の興福寺食堂が焼けた時、消火され、柱も燃えずにすみました。本柱の中に火種が残っているとのこと、大工が急ぎ2本の仮柱を立て、本柱を取り除き水をかけ完全に火消しをし、ふたたび本柱を戻したという記録があります。高い技術を持つ専門家が寺院のまわりに住み、いざという時に備えていたそうです。

中世には、南海トラフ地震や近畿内陸地震、それ以外の地震もありましたが、深刻な被害にはならなかったそうで、地震よりも大風（台風）による損害の方が大きかったと知りました。

9月行事予定

- 6(日) いとばた会
- 11(金) 訪問理美容
- 17(木) 食事会
- 21(月) 敬老会（祝膳、腹話術）
- 29(火) 防災訓練

7月15日（水） 物故者慰霊の日

願随寺様導師のもと法要が行われ、
故人を偲びました。



お誕生日

おめでとうございます

A 様 (96歳)

B 様 (93歳)

